

# 第81回町田市環境審議会 議事要旨

【日時】2021年8月3日(火) 18:30-19:50

【場所】Web会議

【出席者】

委員：堂前委員(会長)、鳴海委員(職務代理)、根本委員、藤倉委員、佐藤委員、仁部委員、野村委員、宮下委員、大谷委員、木村委員、瀬田委員、渡邊委員  
事務局：環境資源部 野田、環境政策課 宮坂、土志田、井上、伊藤、西、香山、藤森、環境・自然共生課 藤原、大西、野地

傍聴：2名

【欠席者】

委員：なし

【資料】

資料1：第3次町田市環境マスタープラン(素案)

資料2：第二次町田市環境マスタープラン等の2019年度進捗状況の点検評価への対応

資料3：第二次町田市環境マスタープラン等の2020年度進捗報告書

資料4：意見シート(開催後提出用)

参考資料1：策定スケジュール

参考資料2：第10期町田市環境審議会委員名簿

## ■第1部

【開会】

- 堂前会長から、出席者の確認を行った。

【議題】

第3次町田市環境マスタープランの素案について(資料1)

- 事務局から、資料1に基づいて説明を行った。

鳴海委員：基本目標1、施策[3]の成果指標「市内の温室効果ガス排出量」の電力係数は何か。

事務局：2013年度はオール東京算定ソフトから、2030年度は国のマニュアルの0.37を使用している。

木村委員：基本目標1、施策[4]について、現行計画にはある輻射熱(ふくしゃねつ)に関する施策が削除されている理由はなにか。

事務局：現行計画はアクションプランを策定し、具体的な市の取組を記載していたが、次期計画からはアクションプランに当たる部分を包含するため、冊子には主な取組を掲載している。現在、取組内容については新規、継続(縮小、拡大)、中止等

を含めて、各課と調整中である。

藤倉委員：基本目標5、施策[1]の成果指標「環境に配慮した行動を行っている市民の割合」について、基準年度が2022年度なのはなぜか。また、2022年度の実績値はいつ出されるのか。

事務局：今までも「環境に配慮した行動を行っている市民の割合」については、エコ（環境）に関する市民アンケート調査の中で聞き、実績値を指標として設定していたが、新たに設問内容を設定するため、現状値を示せるのが2022年度実績となる。2023年度実施のアンケート結果を集計し、秋ごろに公表予定である。基本目標1、施策[4]の気候変動の成果指標も同様である。

大谷委員：基本目標5、施策[1]の協働の取組は素晴らしいと思う。これからの事業で難しいかもしれないが今後、市と事業者、市民などと連携する構想などはあるか。

事務局：現状明確な事業などはないが、検討中である。

堂前会長：「第3次町田市環境マスタープラン（素案）」の承認に異議あるか。

一 同：異議なし。

堂前会長：「第3次町田市環境マスタープラン（素案）」を承認とする。事務局は引き続きレイアウトや目標値の精査を進めること。

## ■第2部

### 【報告】

#### 2019年度進捗状況の点検評価への対応について

（2020年8月にいただいた提案事項に対するの整理）（資料2）

- 事務局から、資料2に基づいて説明を行った。

根本委員：基本目標5の1つ目について、「販売または使用」はプラスチックを想定したものであり、3Rの前段階のリフューズなどにも、次期計画からもしっかりと取り組んで欲しい。

### 【議題】

#### 第二次町田市環境マスタープラン等の2020年度進捗報告書について（資料3）

- 事務局から、資料3に基づいて説明を行った。

＝基本目標2＝

藤倉委員：「③生きものに関心のある市民の割合」が伸び悩んだ理由として、新型コロナウイルス感染症による市民のイベント参加機会の減少が考えられる、とのことだが、同様の理由による達成目標への影響は、冒頭などで一括して記載してもらえると読みやすくなるのでないか。

事務局：今年度発行予定の環境白書では、そのような表記の記載をする。

＝基本目標3＝

鳴海委員：重点事業の年度目標進捗の◎、○、△等はどのように評価しているのか。たとえば、重点事業20の熱回収施設等の整備について、2020年度の目標値は「稼働開始」となっているが、実績値を見るとそうではない。しかし、年度目標進捗の評価は○になっている。

事務局：◎、○、△等の目安は示しているが、2020年度の年度目標に対して、各課が自己評価をしており、明確な基準はない。

鳴海委員：重点事業20の「目標（2020年度）」は「稼働開始」である。年度目標進捗評価が○ということは実績も「稼働開始」ということか。

事務局：重点事業20目標については、稼働開始は2021年度を予定している。△に修正をする。

＝基本目標4＝

鳴海委員：重点事業24の下水処理水の水質向上の評価について、◎が正しいのではないか。基本目標間で統一されていないため、各課が自己評価したものを再度一人が再評価するなど、精査すべきではないか。

事務局：全ての年度目標評価について、再度精査し、統一を図る。

※後日、事務局で精査し、「年度目標」に対しての進捗評価で統一しました。また、重点事業20については、年度目標「熱回収施設の工事を進める。地区連絡会等において周辺住民と合意形成を図りながら、安心安全な施設の建設を進める」に対しての進捗評価ということで、評価を○とします。

＝基本目標5＝

鳴海委員：現行計画の達成目標に対して、達成・未達成が見えてきた訳だが、大幅にマイナスな取組については今後強化するということか。

事務局：2021年度の目標達成に向けて取組を進めているところではございますが、目標達成に届かない見込みの取組もある。そういったところの課題も含めて次期計画につなげていきたいと考えている。

＝全体＝

根本委員：全体で達成できなかった目標について、原因として新型コロナウイルス感染症、指標設定の問題、努力不足、等といったことが想定されるが、原因の総括はするのか。

事務局：来年度に最終的な結果、総括をお示しすることになる。原因については、今年度の環境白書の作成時に、どのように記載をするか検討したい。

堂前会長：総括が出る時期には次期計画が走り出す頃かと思う。次期計画に活かせる総括と

してほしい。

**【閉会】**

- 堂前会長から、閉会の挨拶。

以上